



会長挨拶
PTA会長
青山 由尚

この度、令和二年度PTA会長を務めさせていただくことになりました青山由尚と申します。はじめに、保護者の皆様には着任のご挨拶もできず、ご心配をおかけしております。このような形でご挨拶を掲載させていただきますことに、ご理解を賜りますようお願い申し上げます。私はこれまでPTA役員をしたことがなく、初めての役員がPTA会長という大役になってしまいました。経験こそありませんが、持ち前の機動力を活かし、微力ではありますが精いっぱい務めさせていただきますので、この一年間よろしくお願いたします。

また、母校でもある福江中学校でPTA活動ができることがうれしく、役員の皆様と一緒に活動をするをととても楽しみにしております。早々とバレーシューズも購入してしまいましたが、今年は未だに出番がありません。

編集・発行
福江中学校
PTA 広報委員会

本年度は年度当初から新型コロナウイルスの影響により、学校は長期の臨時休校になりました。PTA総会におきましても書面による決議という異例の措置でのスタートとなりました。その後、緊急事態宣言も解除され、ようやく学校が再開する運びとなりました。

しかし、依然としてコロナウイルスへの懸念が収束する気配がなく、予定しておりました様々な行事を中止や縮小という、苦渋の決断をしなければならぬ事態が続いています。通年の活動が当たり前に行えないことへの悔しさ、先行きの見えない不安、これまで経験したことがない事態に心配が尽きません。

PTAの会則第二条に「この会は家庭と学校とが緊密に協力しあつて生徒の福祉を増進するとともに、学校教育の振興を図ることを目的とする」とあります。通年の活動はできなくとも、今、このような時にこそ子供たち、保護者の皆様、学校の架け橋となり、子供たちが安心して安全な学校生活が過ごせる環境を目指したPTA活動に尽力していく所存です。皆様のご指導をいただきながら頑張りたいと思います。お力添えをよろしくお願いたします。



コロナ禍に
思うこと
校長
山本 哲男

コロナウイルスの影響で、今年もPTA総会が中止となり、PTA委員も6月にやっと初会合を行うことができた状態でした。PTA委員会で、行事の中止を決めるばかりで、委員の方には大変申し訳ない気持ちです。感染が収束し、学校やPTAの活動が早く元に戻ることを祈るばかりです。

さて、学校が休校になった三月、書店に行くと、学習問題集の棚が空っぽになっていことに驚きました。急な休校の決定、そして、四月には再開するということもあって、子供に学習プリントのような課題を出した学校は多くありませんでした。

しかし、長い休み、宿題もない。子供がどうなるか、安易に想像がつきます。テレビでは、一日中ゲームをやって過ごす子供の姿も取り上げられていました。親御さんにしてみれば「何か与えて勉強させなくては」と焦ります。書店から問題集がなくなるわけです。

四月になって休校がさらに延長されると、学校でも危機感が始まります。多くの学校が慌てて課題の配付を始めたのはこの頃です。

コロナ禍による長期の休校で、いろいろな学校教育の問題点が浮かび上がってきました。例えば、行事や活動の中止・縮小をしたわけですがそうすると、「何が大事なのか」といった議論が先生の間で起こりました。今まで、深く考えないで、例年通りに流れていたことが多かつたことに気付いたのです。

そして、最大の問題は、「指示待ち教育」です。子供は、先生の指示で動き、課題がなければ勉強しないことが明らかになりました。日本の学校は、課題を与え、テストの点数を取るための教育はしているけれど、自分で課題を見つけ、学んでいく姿勢を育てることに力を入れていないのです。これは、以前から日本の学校の問題点だと言われていました。社会に出れば、自分で問題を見つけ、考え、工夫していかなければなりません。それなのに、日本の中学校教育は、何十年前と根本的に変わっていません。

世の中ではオンライン授業の体制整備が声高に叫ばれています。しかし、そんなことよりも重要なのは、自分から学ぶことを見つけれらる人を育てていくことです。慌てて課題を配付する学校の姿は、とても先進国の学校とは思えません。いまだにペーパーテスト至上主義の学校教育のあり方を、日本中が真剣に考え直さなければいけないときです。

父母の聲

コロナと共に始まった 中学校生活

一年保護者 長坂 貴史

二〇二〇年、記憶にも記録にも残る一年を送る中、日々自粛や不要不急の外出を避けるなど新たな生活様式が定着し始めています。

本来なら、部活動も本格的に始まり、夏の大会も行われるはずでした。しかし、本年度はコロナウイルスの影響により夏の大会は中止となり、その他の行事も中止が決まるなど、子どもたちは、ストレスの溜まる日々を送っています。

そんな中、例年とは異なり、八月一日より十六日間という短い夏休みを過ぎました。夏休み明けと共にテストが始まり、徐々に中学生らしい生活が始まりました。新生活様式の中で、いかに中学校生活を満喫できるか、子どもたちと共に考えていきたいと思っています。



娘たちの成長

一年保護者 池田 江里

学校が再開して、早三カ月が過ぎようとしています。突然休校になり先の見えない自粛生活の中、私自身もどう過ごそうか不安でした。

そんな中でも、姉が一年生になった妹に新しい友達ができたと話や体験入部の時の様子を教えている姿を見て、子どもの成長を感じることができました。それと同時に中学校生活の中の一年というのはあつという間に過ぎると思いました。

最近では、少しずつ普通の生活に戻りつつあります。しかし、まだまだ油断はできません。例年通りとはいきませんが、少しでも子どもたちが楽しい思い出ができるようにPTAとしてお手伝いさせていただきますと思います。

充実した学校生活を

二年保護者 高瀬 哲也

いまだかつてない三カ月にも及ぶ休みが明け、五月下旬から学校が通常再開しました。休校当初は喜んでいた子どもたちも「友達と会えない」「体育館も使えない」と話すなどイライラしているのがわかりました。

今年度は行事も延期や中止と例

年通りとはいきません。田原市も新型コロナウイルス感染症の患者が確認され、身近に感じる様になり、マスクが手放せない生活になっていきます。そんな中でも、子どもたちには勉強・部活動を仲間と頑張つて楽しい学校生活を送つて欲しいです。

明るい未来を期待して

三年保護者 鈴木 和美

今年度はコロナウイルスの影響で、学校の開始が遅れ、予定されていた様々な行事が中止となり、異例のスタートとなりました。

三年生は中学校生活最後の部活動にも影響が出て夏の大会も中止になってしまいました。それを聞いて子どもは、とても残念そうな顔をしていました。三年間、部活動に一生懸命に取り組んでいた子どもを見ていた私も心から残念だと思いました。

学校が四月から始まらないため、いつもより勉強を頑張っていることは知っています。これから色々な楽しい出来事が有りますように、みんな頑張っていきましょう。



生徒の聲

中学校に入学して

一年 岡田 佳凌

私が中学校に入学して、一番最初ががんばったことは、いち早く中学校生活に慣れることです。生活面も学習面も小学校の時とは全然違うので、最初はとても不安でした。

しかし、担任の先生やクラスメイトのみんなが優しく話しかけてくれるので、私も楽しくみんなと打ちとけることができました。

このクラスで、色々な行事を盛り上げていければいいなと思っています。これからの中学校生活がとても楽しみです。



初めての部活動

一年 長尾 杏奈

部活動見学に行ったとき、先輩の上手にプレーする姿や集中して部活動に取り組む姿を見ました。自分が入部してやってみようかと思いは入りませんでした。しかし、体験入部で先輩が丁寧に優しく教えてくれたので、楽しんで取り組むことができました。

ソフトボール部に入部が決まり、本格的に部活動が決まったときには、早く上手になりたい気持ちで全力で練習を頑張りました。初心者なので、まだ分からないことの方が多いけれど、いつか二年生とプレーできるくらいに上達して、試合で活躍する選手になりたいです。



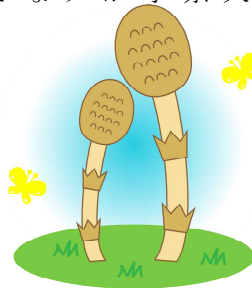
出発式を終えて

二年 宮川 弘慎

二年一組の級訓は「つくし」です。「常に笑顔で、苦しい時でも助け合い、信頼できる仲間」になろうという思いが込められています。出発式では「つくし」に込めたクラスの思いを発表し、一組の元気の良さが伝わるように踊りました。

僕は、クラスを盛り上げるように、率先して声を出し、歌いました。出発式では、一組のメンバーで初めて行った活動だったので、少し恥ずかしく緊張しました。しかし、みんなで協力できたことや自分の考えた案が使われたことがうれしかったです。

二期期にある体育大会や合唱祭などの行事でも、自分から行動し、クラスみんなと協力して頑張りたいと思います。



引退式

二年 藤井 夏梅

引退式では、私たちが今まで見てきた三年生の姿や二年生が引き継いでいきたいことを言葉にして伝えました。

私は大勢の前で話すことが初めてのことで、手が震えるくらい緊張していました。しかし、一・二年生の代表として前に立つという意識

をもち、精一杯声を出しました。各部活動の代表の人たちも同じ思いで三年生へ思いを伝えました。私たち二年生が三年生の思いを背負ってこれからがんばっていくという気持ちですが、三年生に届いてほしいです。

部活動を終えて

三年 小川 凜乃



私にとって部活動はとても充実したものでした。新人戦の優勝で始まり、最後の交流試合も目標通り全勝することができました。

バレーボールは一人の力では勝つことのできない競技です。一人がミスしても、みんながカバーをし、誰かが得点を決めれば、みんな喜び合える最高のチームでした。キャプテンとしてやりきれたのは一緒に頑張ってきた仲間の支えがあったからです。楽しく笑顔で終

わることができたのも先生方、後輩のみなさんのおかげです。ありがとうございました。

恋路ヶ浜へ行ってみた

三年 中村 心奏

私たち三年生は、総合的な学習の時間で渥美の魅力を探る学習をしています。その一環で伊良湖の恋路ヶ浜へ行きました。

観光客の立場になって散策しました。砂浜に行くまでの道には灯台があったり、俳句が書いてある石碑があったりするなど、色々な景色を楽しめることがわかりました。

砂浜では、走り回ったり、波打ち際に木の棒を立てたりして遊んだことが楽しかったです。伊良湖には、こんなにきれいな所があったのだなど改めて魅力を感じました。



部活動の様子

最高の引退試合

ソフトボール部

目標となる最後の大会が中止になりましたが、三年生二人は「最後まで部活動をやりたいです」と答えました。このことを二年生に伝えたい、二年生も三年生と最後まで練習をしたと答えました。「二年生として三年生のために何ができるか？」と問いかけると、自分たちが普段できていないことに向き合い、一生懸命考えて話し合いました。その結果、「自分から動く」「時間を有効に」「速攻準備」という三つのキーワードを決めて練習に取り組みました。明らかに意識が変わり、一人一人が声を出して真剣に練習に取り組み姿を見せてくれました。公式戦で一度も勝つことがなかったチームが、最後の練習試合で全勝することができました。チーム一丸となり勝利をつかんだ最高の試合でした。記録には残らないが、彼女たちの記憶にいつまでも残っていてほしいです。



先輩の背中

男子卓球部

七月二十九日、三年生にとって中学校生活で最後の部活動の日に「どんな練習がしたい？」と聞くと、「先輩たちのためになる練習がしたい。」と答える二人の三年生がいました。最後までチームのことを考えてくれた三年生の姿は、とても頼もしく感じました。そんな先輩たちの思いに応えられるよう、築いてくれた伝統を新チームでも引き継ぎ、みんなが一丸となってがんばっていきま



一・二年生！

新人戦に向けて頑張ってください！

女子卓球部

七月十一日に交流試合が終わり、七月十九日の最終日まで、後輩を育てる時間にしたと決めました。「卒業した先輩の想いを引き継ぎたい」という三年生の想いを受けて、二年生も一年生も、大きな声を出す、元気な女子卓球部にしようと頑張っています。



「徹底」してきた三年間

バスケットボール部

交流試合に向けて、全員で声を出したり、準備・片付けを行ったりすることを、より一層意識して練習に取り組みました。引退する最後の瞬間まで、自分達のやっていることを徹底してできたことが自信になっていきます。新チームでも、当たり前のことでも、きちんとできるよさを引き継いでいってほしいと思います。



乾坤一擲

剣道部

武道場の正面に掲げられた部旗「乾坤一擲」。この言葉のように、強い相手にもひるまず、大勝負をかけることができるように練習に取り組んでいきます。本年度より、福江高校生も練習に参加しています。高校生の動きから学び、自分の技を磨き、強くなります。



全員野球で目標達成

軟式野球部

三年生の思いを受け継ぎ、チームの目標を「東三大優勝、県大会ベスト4」と決め、その実現のために練習をしようと話し合いました。新人戦までの期間で、試合に生きる練習をして、「全員野球」で東三大優勝をし、県大会ベスト4まで上り詰めます。



ラベンダーで癒やせよう

園芸部

園芸部では、ラベンダーを使ってフロアラルウオーター、ポプリを作っています。今年度はフロアラルウオーターのラベルを一新したり、めつくくんはうすなどで販売するとき使用するポップを作成したり、ポプリにつけるチャームやラベンダーを作ったり、いろいろなおことにチャレンジしました。いつも活動している金工室はラベンダーの香りに包まれています。

